

GEAHSS第6期運営委員会第2回(通算第12回)議事録

日時: 2023年9月23日(土) 13:30~15:30 Zoomによるオンライン開催

出席(43学協会)

アメリカ学会、沖縄女性研究者の会、関西社会学会、共生学会、経済理論学会、国際ジェンダー学会、ジェンダー史学会、社会言語科学会、心理科学研究会、総合女性史学会、日本アメリカ文学会、日本英語学会、日本教育学会、日本教育社会学会、日本経営学会、日本経済学会、日本言語学会、一般社団法人 日本健康心理学会、日本ジェンダー学会、一般社団法人 日本社会学会、日本社会教育学会、日本社会心理学会、一般社団法人 日本社会福祉学会、日本人口学会、公益社団法人 日本心理学会、日本スポーツとジェンダー学会、日本政治学会、日本西洋古典学会、日本村落研究学会、日本中東学会、日本哲学会、一般社団法人 日本認知・行動療法学会、日本認知心理学会、日本年金学会、日本農村生活学会、一般社団法人 日本発達心理学会、日本フェミニスト経済学会、一般社団法人 日本文化人類学会、日本法社会学会、日本マレーシア学会、一般社団法人 日本民俗学会、日本労務学会、歴史学研究会

委任状(9学協会)

科学技術社会論学会、一般社団法人 社会情報学会、東南アジア学会、東洋史研究会、日本医学哲学・倫理学会、日本教育行政学会、日本犯罪社会学会、日本保健医療社会学会、日本倫理学会

オブザーバー出席(1学協会)

日本情報教育学会

定足数を確認、委員長挨拶の後、議事に入った。

議題

<報告事項>

1. 前回運営委員会議事録(2023年3月26日開催, 通算第11回)の確認(資料1)
前回の第6期第1回運営委員会の議事録が確認された。

2. 2022年10月1日~2023年9月30日までの活動報告

(1)加盟状況(資料2)

松並事務局長より、現在73学協会が加盟しており、そのうち1学協会がオブザーバー参加であることが報告された。また、オブザーバー参加であった1学協会が正式加盟し、新たに1学協会が入会したことが報告された。

藤井委員長より、政策提言の際には数が力となることから、まだ入会していない周辺の学協会に入会を勧めてほしい旨の依頼があった。

(2)活動報告

藤井委員長より、第6期の活動内容が報告された。(1)2023年3月開催のシンポジウムのアンケートの結果が報告された(資料3)。(2)第1回運営委員会後のアウトリーチ活動として、共催1件(日本学術会議主催 学術フォーラム「研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進」2023年3月開催)があったことが報告された。(3)内閣府男女共同参画推進連携会議から依頼のあったギースからの団体推薦議員として、来期においては、椎野次期委員長が担当することが報告された。

(3)委員会報告

・企画・調査委員会(調査ワーキング・グループ)より

宇井調査WG座長から、第2回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査について、再度、協力を促すよう、加盟学協会に対して依頼があった。また、調査の回答期間が10月15日まで延長されたこと、まだ回答数が少ないことが報告された。

窪田副委員長より、性別を問わない回答依頼の必要と、前回の調査経験者として、このような調査は男女共同参画を推進するにあたり、大変重要なものだということを強調する必要があることが述べられた。

・アウトリーチ・広報委員会より

椎野広報・アウトリーチ委員長より、ギースのホームページやFacebook、Twitterでの配信について紹介され

た。またホームページのフォーラムの使い方についての説明が、一斉配信メールに記載されていることが伝えられ、フォーラムを使って情報交換をすることやFacebookやTwitterのフォローをすることが依頼された。

歴史学研究会より、フォーラムへのログインがうまく機能しない場合があることが報告された。

3. 学協会からの活動報告

(1)グッド・プラクティス事例等

藤井委員長より、グッド・プラクティス事例について、各学協会がHPのフォーラムを使って周知しあうことが提案された。その後、いくつかの学協会の事例が紹介された。例：規定の改定、研究におけるつながりづくり、ジェンダーやセクシュアリティの研究レビュー、選挙におけるアファーマティブ・アクション、オンライン学会大会、役員会における男女比の検討、無料の託児サービス、研究奨励の財源として寄付金の利用、ジェンダー平等・ダイバーシティ&インクルージョン推進のためのワーキンググループの設置。

日本哲学会より、ブラウンバック・ネットワーク・ランチという事例(学会大会の昼休みに、若手研究者の部屋や男女共同参画の部屋を用意し、当事者たちが弁当持参で集まって自由に話し合う機会をつくるもの)が紹介された。

<審議事項>

1. 第6期(2022年10月1日～2023年9月30日)の決算について(資料4・4-1・4-2)

松並事務局長より、第6期の決算報告がなされた。今期、これまで支払われた分担金が何期に該当するのかを確認した結果、4学協会が第3期以降ずっと未納であることが明らかになった。また、積み立て金として、アンケート調査の準備費とホームページ更新の費用が計上された。吉原雅子氏(日本哲学会)と松永美希氏(一般社団法人 日本認知・行動療法学会)の両会計監事により適正に会計処理されていると報告された。

43学協会による投票がなされ、賛成43票、反対0票、白票0票となり、過半数の賛成により、承認された。

2. 第7期(2023年10月1日～2024年9月30日)の予算と活動計画について

(1)予算について(資料5)

松並事務局長より、これまでの分担金の未納分を収入に含めていることが報告された。それ以外の予算については例年通りの計上が提案された。

藤井委員長より、シンポジウム用Zoom契約費等は、幹事学協会によって支出されることもあるが、必ずしもそうではない場合もあるため每期計上しておく必要があることや、ホームページ更新積立金を継続することが提案された。

(2)活動計画について(資料6)

椎野副委員長より、第7回公開シンポジウムについて説明がなされた。テーマは「なぜ日本のジェンダー指数は低いのかー経済、法律、教育、政治の各分野から考える」であり、第2部としてテーマ別ディスカッション「ギースのネットワークの活用をめざしてー「若手」等の「問題」を共有・可視化・解決するためのボトムアップ」を行うことが報告された。このシンポジウムのため、10月ごろに、若手研究者を中心にZoom会議を開催したいとの意向が示され、興味がある人は、椎野副委員長か事務局に連絡がほしい旨が伝えられた。

歴史学研究会から、宣伝のために早めにチラシなどを作成してほしい旨の要望があった。また、研究者だけではなくジェンダーに関心がある一般の人にも知らせるための情報サイトがあるとよいとの意見があった。

42学協会による投票がなされ、賛成42票、反対0票、白票0票となり、過半数の賛成により、承認された。

3. 第7期(2023年10月1日～2024年9月30日)の委員長・副委員長の選出

藤井委員長より、第7期委員長を椎野若菜氏(日本文化人類学会)とし、副委員長を松永美希氏(日本認知・行動療法学会)および窪田幸子氏(日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会)とすることが提案された。ただし、日本学術会議の第25期が9月末日までのため、改選までの期間において窪田副委員長・岡部幹事とも前任者が残る形となっており、日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会の新体制が決まり次第、交代すること、3年前にも同様のことがあり、承認されていることが伝えられた。

41学協会による投票がなされ、賛成40票、反対0票、白票1票となり、過半数の賛成により、承認された。

その後、椎野氏、松永氏の代理として戸ヶ崎氏(日本認知・行動療法学会会長)、窪田氏から挨拶がなされた。

4. 第7期(2023年10月1日～2024年9月30日)の幹事学会・副幹事学会の選出

藤井委員長より、第7期委員長が所属する幹事学会を日本文化人類学会とし、第8期委員長が所属する副幹事学会を日本認知・行動療法学会とすることが提案された。

43学協会による投票がなされ、賛成43票、反対0票、白票0票となり、過半数の賛成により、承認された。

5. 第7期(2023年10月1日～2024年9月30日)の会計監事の選出

藤井委員長より、第7期会計監事を、高良麻子氏(日本社会福祉学会)、安藤由美氏(日本社会学会)の2名とすることを提案された。ただし、2024年5月に日本社会福祉学会の理事改選があるため、日本学術会議と同様に、場合によっては交代があるかもしれないことが報告された。

42学協会による投票がなされ、賛成41票、反対0票、白票1票となり、過半数の賛成により、承認された。

その後、両名から挨拶がなされた。

6. その他

・沖縄女性研究者の会より、ギースHPでも広報された沖縄女性研究者の会が開催したイベントが盛会であったことが報告された。そのイベントの成果は学術誌『研究論集』第14号に掲載される予定であると伝えられた。

・日本政治学会より、学協会を越えたハラスメント対策を実施する必要があること、たとえば被懲戒者の情報共有、相談窓口の設置、倫理綱領の整備などが要望された。くわえて窪田副委員長からも超学会での検討が要望された。

・第10期(2026年10月1日～2027年9月30日)以降の幹事学会募集について

藤井委員長より、第9期(2025年10月1日～2026年9月30日)の幹事学会は日本社会福祉学会が候補となっているが、副幹事学会の候補がないため、立候補してほしいという依頼がなされた。

以上